

權者穴觀音詣

權者穴觀音詣

山里も住めハ都の花(の)頃 鳥啼渡る折節二
風と誘王連わて権者穴観音詣いりし候 名も大峯
急路遠く 百折るる山坂も 登り詰たる前が辻
暫ク木蔭に休らひて 向越遙をに見渡せハ 掛連類れ四
方の山二日高川 岸に並木の松が枝に 藤井・吉田なる 里の煙の絶間より 和田・芳原
の忝原松やしほや 野嶋の浦々も一目に見ゆる
淡路鳶上り下りの帆懸舟 詠めも飽きぬ風景に
日頃の鬱も晴し候 弓手の方ハ其昔 威勢も
四方に輝かし 玉置の城も今ハ只 石や瓦と成
果てし 世の盛衰ぞ哀なり 扱此山に名も高き
権者穴とて云傳へ 千尋二餘る窟阿あり 鬼の栖
と怪まれ 空吹風も身に入みて 物凄き所なり
観音前に跪き 現當二世の祈を籠む 夫よ
り下向二趣けば 瀧谷落て岩脇や 水の流れも

細々と 湊川へぞ出にける 丹生大明神に参詣
し 其廣庭に?に堆き蓬萊山にて 不老不死神の惠
ぞ有難き 実げ二濁りなき清水川 橋を越連れば一
宅山生蓮寺とて浄土宗 本堂 鐘楼 観音堂 夢
を双て建給ふ 御經讀誦称名の声絶間なき 法
の庭門を出連れハ 辻繩手 山王權現伏拜二 野田
の蛙の鳴声に 心せか連れて足曳の 山崎過て谷
口や 程なく門前南陽山廣性禪寺ハ 古の七堂
伽藍茂も苓落し 法燈国師の開山堂 僅に残る境
内に むかしなが羅の山櫻 替らぬ色ハ花なら
で 千歳をぞ経し物もなし 谷を隔て光源寺
一向宗旨の御宗門 日々盛へましまし在々て 寺中御和
讃御文章 いとくも尊く覚へける 御八ツの太鼓
へ数添て 口こだま笏まに響く見る山の 裾を廻て出合
川原 別路の跡や先書散したる 笑恥かしき御

事に存じにしいらせり

本書原本は半紙九枚に記している。作者は狩谷御
隠居とあるのみで、明らかにせぬが、恐らくは現
川 辺町教育長狩谷啓次郎氏の祖、狩谷楠太夫な
ら んか。狩太夫は淨瑠璃をよくし、また文筆のた
しな みあり、吉沢あや免の記事なども遺せり。本
書原本 は川辺町和佐玉置嘉一郎の所蔵する処。

昭和三十四年十二月参日

清水 長一郎

『權者穴観音詣』は毛筆で筆写しており、漢字や
ひらがなの難読字には、ルビが付けてあり、古文
書解 読の勉強に大変参考になった。

平成十八（二〇〇六）年四月二十日

清水章博